

「令和7年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立浩養小学校】

令和7年4月に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

※調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/25chousa/25chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較)

| | | |
|-----|---|---|
| 国 語 | 学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題 | B |
| 算 数 | 学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題 | C |
| 理 科 | 学習指導要領の目標及び内容に基づき、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」などの科学の基本的な概念等を柱とした内容をバランスよく出題 | B |

☆ 全国平均正答率との比較について

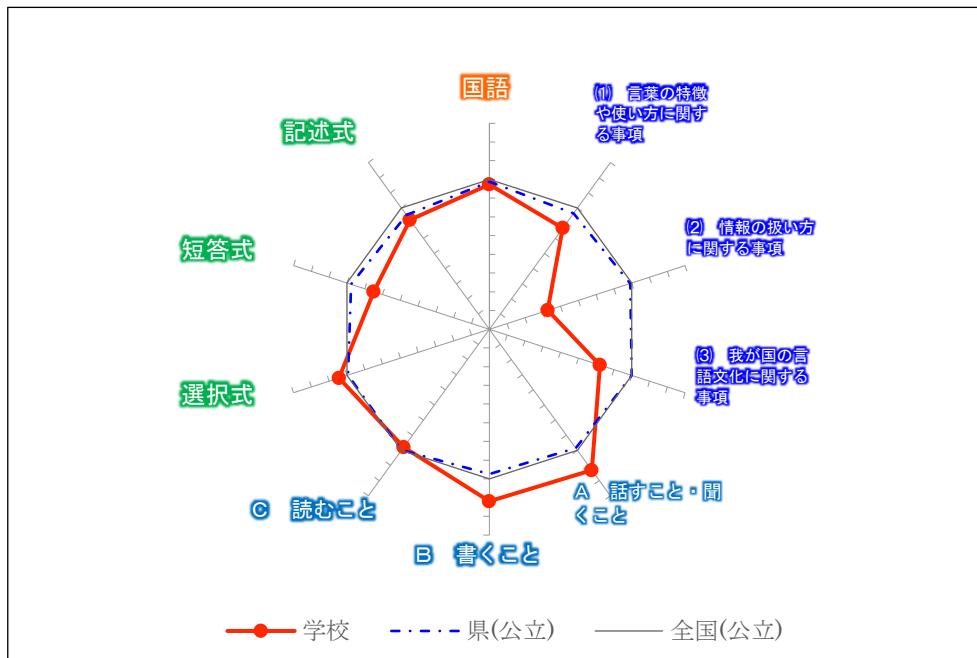
A : +5.0%より上回っている場合「良好」

B : +5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C : -5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



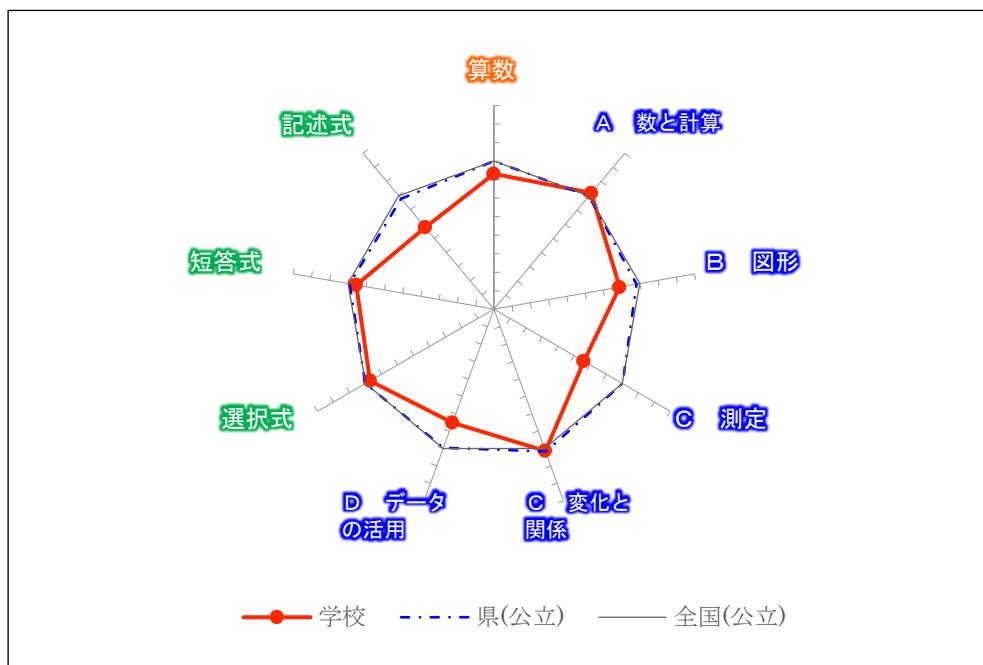
【特徴と現状】

- 全国平均と比べて、正答率が2.7%下回りました。しかし、昨年度と比べると正答率を大きく伸ばし、その差は縮まっています。また、思考力、判断力、表現力等に関する内容（A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと）については、全国平均を上回る結果でした。
- 目的や意図に応じ、自分の考えを工夫して書き表す力を問う問題を扱った「情報の扱い方に関する事項」の正答率が全国平均を下回る結果でした。
- 回答の仕方（記述式・短答式・選択式）では、特に短答式に課題がみられました。文章に合う適切な言葉を選んだり、書いたりすることに課題があることがわかりました。

【改善方策等】

- 児童質問用紙の結果から「読むこと」に対して前向きな児童が多いこと分かりました。読解力が伸びていくように、全校で行っている読み聞かせを継続していきます。学校図書館司書と図書担当が連携し、図書室の環境整備や読書に親しみをより感じる取組をしています。
- 日常的に読む力が伸びていくように、朝の帯時間で、音読や視写の学習を繰り返し行っています。また、新聞のワークシート通信等を活用し、文章の内容を正確に理解できる力を育てていきます。さらに、全校集会で、今月の詩を発表する取組を継続していくことで、学校全体として高い意識をもって取り組んで行きます。
- 自分の考えや学習のまとめ、振り返りなどを書くことを繰り返し行うことで、自分の考えを目的や意図に応じて書く力を高めています。
- 教科書の文章の特徴を文と文のつながりを意識して読む練習をしていくことで、文章に合った適切な言葉を選んだり、書いたりすることができるようになります。また、国語辞典も授業の中で活用し、語彙力を伸ばしています。

算 数



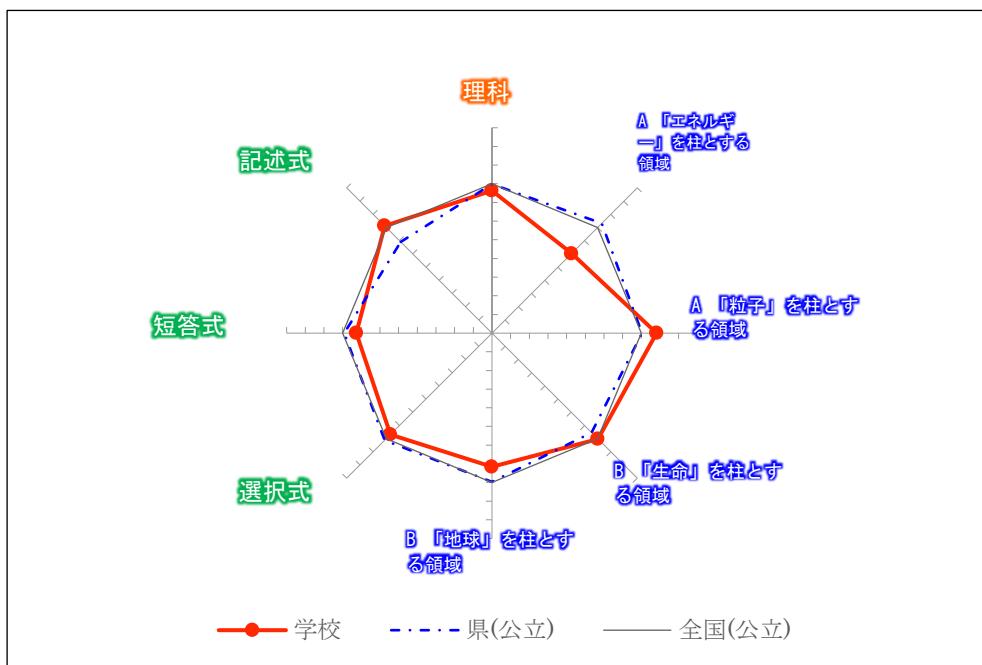
【特徴と現状】

- 全国平均と比べて、正答率は約7%下回りました。しかし、昨年度と比較すると、その差を10%以上縮めています。
- 内容については、「測定」の正答率が最も低い結果でした。「図形」についても正答率は低いですが、過去2年間と比べても15%以上の正答率の伸びが見られました。問題形式では、「記述式」の正答率が特に低い結果となりました。
- 算数科の正答率が伸びた背景には、「数と計算」の正答率が全校平均より上回っていることから、基礎基本が定着してきていることが考えられます。基礎的な問題で正答率を伸ばしていました。
- 問題の後半に無回答率が増えており、問題を読み進めていく力を持つ必要があります。

【改善方策等】

- 基礎的・基本的な知識・技能が定着してきています。朝の帯時間で、計算（100マス計算や既習事項の計算練習）の時間を確保しています。また、計算時間の記録をファイリングすることで、学年ごとの目標タイムや各自で設定した目標タイムに向けて、意欲を継続できるようにしています。
- 毎月、月例テストを実施し、理解が不十分な学習内容を繰り返し取り組むことで、学力の向上を目指していきます。また、月例テストでは文章問題にも取り組んでいきます。
- 「測定」に関しては、算数科以外の教科でも目盛りの測定を意識した授業を実施していきます。一目盛りを意識させて、正しく読める力を育てていきます。
- 図形に関しては、ICT機器を活用して授業改善を行ってきた結果が正答率の伸びにつながったと考えられます。今後も全国学力状況調査の問題を職員が解き直し、考察する研修を実施していく、授業改善に努めます。
- 学習の要点を意識して、まとめや振り返りを自分の言葉で書く学習を積み重ねることで、書く力や学力の向上を図っていきます。

理 科



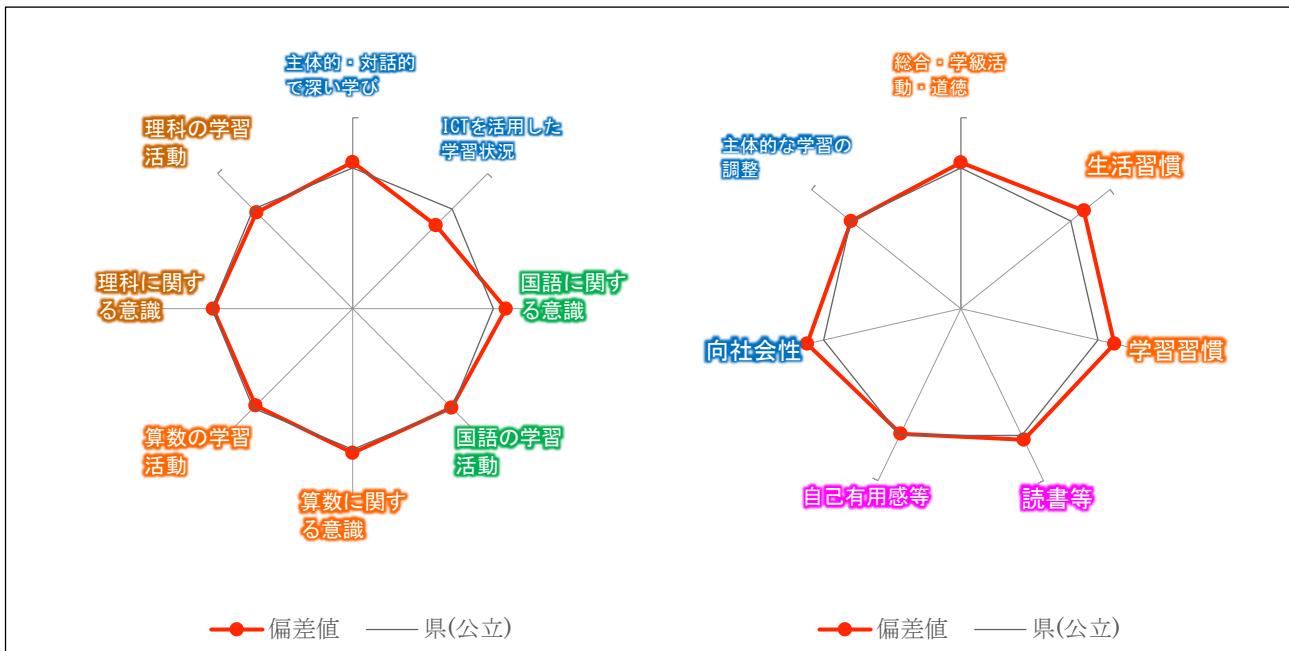
【特徴と現状】

- 全国平均と比べて、正答率は約2%下回りました。しかし、17問中、14~19問の正解した児童の割合が全国よりも高く、平均点を上回った児童が多いことが分かりました。
- 「粒子を柱とする領域」では、全国より約8%も正答率を上回りました。
- 内容については、「エネルギーを柱とする領域」が最も低く、電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関する理解に課題が見られました。学習を通して身につけた知識を活用する力を向上させていく必要があります。
- 問題形式では、記述式で全国の正答率を上回りましたが、短答式の正答率が伸びませんでした。
- 得点が伸び悩む児童に、無回答が多く見られました。理科に対して前向きに取り組める支援が必要であると考えられます。

【改善方策等】

- 課題の把握（発見）、課題の探求（追求）課題の解決による学習過程において、児童の資質や能力が育成されるような授業改善を行い、児童の課題の解決につなげていきます。
- 課題の把握の過程では、教科書に出てくる専門的な言葉や表現を授業の中で確認したり、補足説明したりすることで、学習内容を正確に理解できるようにしていきます。学習内容の理解を深めることで、実験や観察などにおいて正しい視点で事象を捉えられるようにしていきます。
- 課題の探求の過程では、課題が明確になったことで、主体的に取り組めるような場を設定していきます。友達との意見を交流する場面も設定し、課題解決に向けて試行錯誤しながら解決していくようにしていきます。
- 課題の解決の過程では、自分の言葉で学んだことのまとめや学習の振り返りを書くことができるようにしていきます。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 児童質問紙調査では、教科に関する項目においてでは「国語に関する意識」が高い数値を示しました。過去2年間と比較しても数値に向上が見られました。生活面では、「生活習慣」・「学習習慣」・「向社会性」の数値が高いです。朝食や起床・就寝時刻が安定しており、規範意識も高いことから数値の向上が見られました。
- 「ICTを活用した学習状況」では、低い数値となりました。しかし、昨年度と比較すると数値を伸ばしています。学年を追うごとにICTの活用能力を高めていますが、全国平均まで及びませんでした。
- 「自己有用感等」・「主体的な学習の調整」については、2年間で1%未満ですが数値が下がり続けています。学力の結果とも連動した結果が見られることから、学力向上が必須の課題となります。

3 まとめ

- 学力向上に向けて取り組んできた成果が結果として表れてきています。今後も現状と課題を分析するとともに、学校全体で対策を練り、職員間で共有することで児童の課題克服を目指していきます。
- 学力向上に向けて、朝の帯時間を活用し、基礎的・基本的な学習の定着を図ります。全校で、100マス計算や四則計算、視写や暗唱を継続して取り組みます。
- ICT機器を活用した授業を実践していきます。職員で実践を共有し、研修を行うことにより、より一層の活用を目指していきます。
- 学年×10分を目安に、継続的な家庭学習への取組にも御協力ください。主体的に学習に取り組めるように、学年に応じて自主学習も宿題に出していきます。
- 携帯電話やタブレットなどの使用方法や時間など、御家庭でのルール作りをお願いします。また、早寝・早起き・朝ご飯への御協力も引き続きお願いします。